



山に緑が増えていくことが、地域の人々の楽しみです。

持続可能な森林を目指して

尾鷲市曾根町に森林伐採後、放置されていた山がありました。海虹路では、その山を自然林に戻そうと植樹活動を始めて今年で5年目を迎えます。

1年目に植えた苗は、台風や動物の食害などにより、思うように根付きませんでした。しかし足を踏み入れてみると、以前はシダに覆われていた山に、多種多様な植物が生えていました。山の様子が変わっていることに気づいた池田さんは「山を再生するために、人が手助けをすることが大事なんだ」

と感じたそうです。

その後はエレコム株式会社による寄付で「三重自然の森づくり基金」が創設され、長期的な森づくりができるようになりました。ヒノキなど生産を目的とした木は植えず、この地域本来の樹種を植えて自然林への再生を図っています。

今年10月に行われた『第4回エレコムフォレスト植樹会』には地域の人やスタッフを合わせ、約170名が参加しました。植樹会は海虹路と森林組合おわせが中心となつて準備を進め、県や市、地域の人たちの協力を得て開催しています。

森林組合おわせの指導のもと、ヤマザクラやクスノキなど広葉樹の苗を550本植えました。参加者は植えた苗に名前とメッセージを付けて今後の成長を見守っていきます。

山を育てるのは50年、100年の単位と長い年月がかかります。地域の人や子どもたちが森づくりに関わることで、持続可能な森林の再生と、地域の自然環境を守ることにつながっていくのです。

森林の資源を活かす

ひのきシートを使った作品には、尾鷲ひのきの赤みがかった木目の美しさが表われています。時間が経つにつれ、その色艶や深みが増していくのを楽しむことができます。ひのきシートは木の魅力をさらに広めることができる新しい手法だといえます。

尾鷲ひのきという地域資源を活かした海虹路の活動は、人と地域の自然をつなぐ役割を果たしています。さらに尾鷲ひのきが新たな形で活かされることで、林業とそれにつながる産業の活性化が期待できます。

私たちが暮らす三重県は面積の約3分の2が森林です。森林は私たちの生活に多くの恩恵を与えてくれます。健全な森林になるためには、私たちが木の製品を使うことで、人工林がきちんと手入れされていくことが大切なのです。

そこで三重県環境学習情報センターでは環境工房「ひのきシートでつくる行燈」を下記のように開催します。尾鷲ひのきを使った作品づくりを通して、木が持つ新たな魅力を感じてください。

写真提供 NPO法人 海虹路

環境工房

ひのきシートでつくる行燈

ひのきシートを透して優しいあかりが灯ります。持ち運びができるのも便利です。この行燈で、ひのきがほのかに香るお気に入りの空間を演出してみませんか？

日時 **4/13(土) 13:00~15:30**

講師 **池田 比早子氏** (NPO法人 海虹路)

会場 **三重県環境学習情報センター**

募集人数 **30名** 材料費 **1,000円**

持ち物 **はさみ・洗濯ばさみ(20本)・筆記用具
行燈につけたい飾り(切り絵や押し花など)**

あんどん

締切

3/16(土)



アオツルを使った籠づくり

環境工房の始まりとなったこの講座は今年で4回目を数えました。今や環境工房には、なくてはならない講座です！



環境工房とは？

環境講座というと「難しそう」と思われるかもしれませんが、誰にでも興味を持っていいただけるような環境の入口講座としてつくられたのが「環境工房」です。環境工房ではこれまでに「ひのきシートでつくるコサージュ」や「草木染め」、「押し花の壁掛け」、「ミニ門松づくり」などの講座を開催してきました。毎回、身近な自然環境の問題について、簡単なお話も入れています。

気軽に、楽しく、ご参加いただけるのが「環境工房」です。是非、お申込みください！

